

米をめぐる状況について

令和 6 年 2 月
農林水産省農産局

目 次

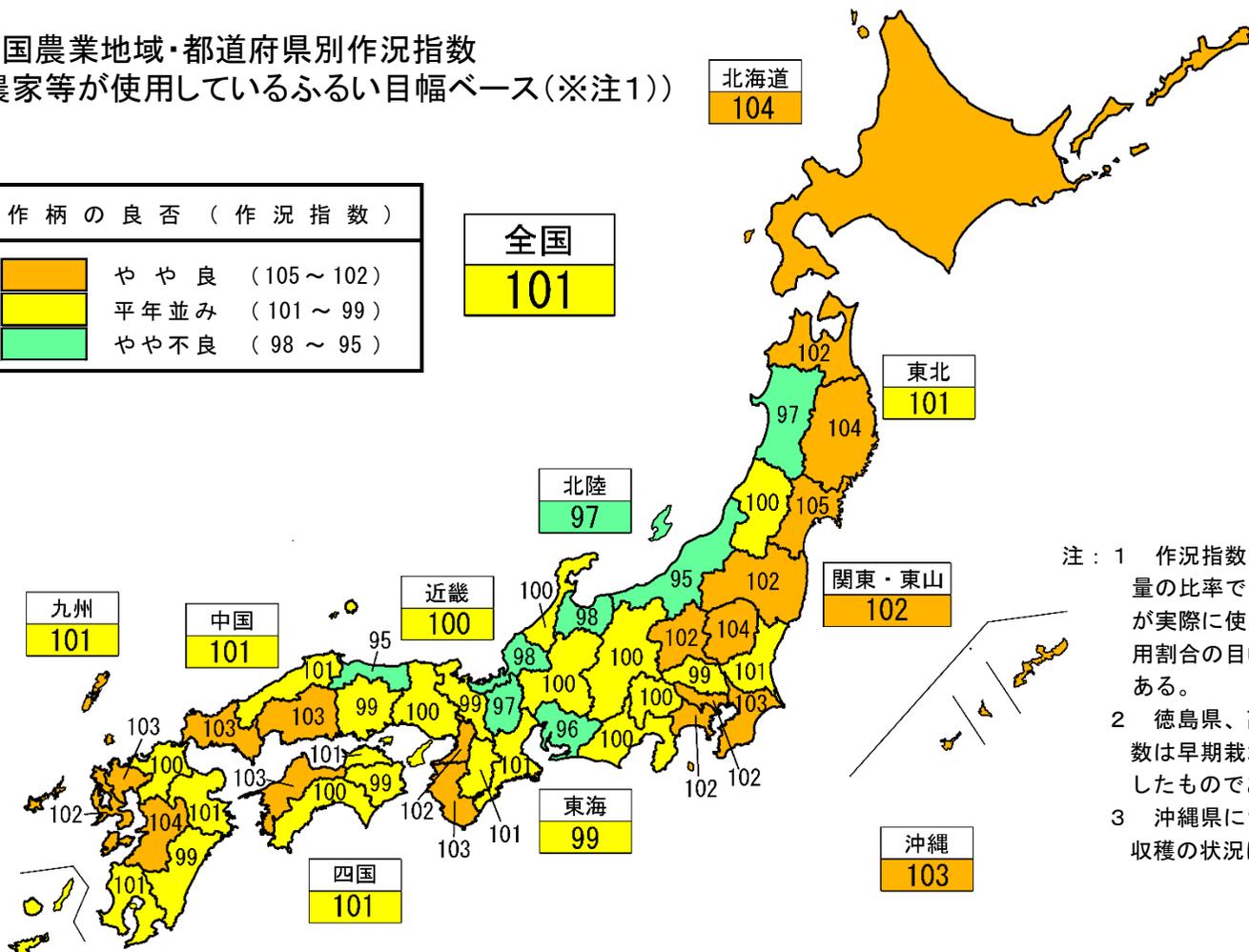
○令和5年産水稻の作付面積及び収穫量	2
○令和5年産の水田における作付状況（令和5年9月30日時点）	3
○令和5年産の水田における作付状況（令和5年9月30日時点）①	4
○令和5年産の水田における作付状況（令和5年9月30日時点）②	5
○基本指針の変更のポイント	6
○米の販売数量及び民間在庫の推移（令和5年12月）	7
○産地別民間在庫の状況（令和5年12月）	8
○相対取引価格の推移（平成25年産～令和5年産）	9
○令和5年産米の相対取引価格（令和5年12月の年産平均価格）	10
○令和5年産水稻うるち玄米農産物検査結果（令和5年12月31日時点）	11
○令和5年産水稻うるち玄米 等級別検査数量（令和5年12月31日現在）	12
○各道府県農業再生協議会等が作成した令和6年産主食用米の生産の目安等	13
○令和5年夏の高温・渇水の状況と対応について	14
○令和5年夏の高温・渇水被害に対する農水省の対応①	15
○令和5年夏の高温・渇水被害に対する農水省の対応②	16
○（参考）各道府県農業再生協議会等が作成した令和6年産主食用米の生産の目安等	17

令和5年産水稻の作付面積及び収穫量

- 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は134万4,000ha（前年産に比べ1万1,000ha減少）となった。うち主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）となった。
- 全国の10a当たり収量（1.70mmのふるい目幅ベース）は533kgと見込まれる。
- 主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた主食用の収穫量は661万t（前年産に比べ9万1,000t減少）と見込まれる。
- 農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101となる見込み。

全国農業地域・都道府県別作況指数
（農家等が使用しているふるい目幅ベース（※注1））

作柄の良否（作況指数）	
■	やや良（105～102）
■	平年並み（101～99）
■	やや不良（98～95）



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

3 沖縄県については、一部収穫を終えていない地域があり、収穫の状況によっては今後作柄が変動することがある。

令和5年産の水田における作付状況（令和5年9月30日時点）

- 全国の主食用米の作付面積については、前年実績（125.1万ha）から0.9万ha減少（▲0.7%）し、124.2万haとなった。
- 令和5年産で畑地化に取り組む面積は、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えると3.5万haとなる見込み。

【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

（万ha）

	主食用米	戦略作物等								備蓄米	
		加工用米	新規需要米				麦	大豆	飼料作物 そば なたね		戦略作物等 合計面積
			新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵 粗飼料用稲)					
H29年産	137.0	5.2	0.1	0.5	9.2	4.3	9.8	9.0	10.2	48.3	3.5
H30年産	138.6	5.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0	2.2
R元年産	137.9	4.7	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6	3.3
R2年産	136.6	4.5	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6	3.7
R3年産	130.3	4.8	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2	3.6
R4年産	125.1	5.0	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9	3.6
R5年産	124.2	4.9	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	8.3	52.8	3.5
畑地化面積	—	—	—	—	—	—	0.4	0.2	1.6	2.2 (3.5)	—

注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS用稲、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。

注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。

注3：麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

※R5年産畑地化面積の戦略作物等合計面積欄の3.5万haについては、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えた面積。

令和5年産の水田における作付状況（令和5年9月30日時点）①

都道府県	主食用米			戦略作物等										備蓄米	
	①	【参考】		加工用米	新規需要米					麦	大豆	飼料作物	そば		なたね
		前年産 (4年産) ②	増減 ①-②		新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵 粗飼料用稲)	その他						
全国計	124.2万	125.1万	▲ 0.9万	48,797	9,091	7,587	133,925	53,055	71	104,526	87,973	56,403	25,785	649	35,359
北海道	82,200	82,500	▲ 300	6,920	1,974	143	6,788	1,594	-	33,869	17,865	11,780	6,551	411	2,089
青森	33,800	33,900	▲ 100	787	321	12	7,930	788	-	561	4,801	3,571	1,133	24	5,661
岩手	42,800	43,700	▲ 900	1,283	417	30	5,739	2,396	1	3,491	4,196	6,717	686	17	663
宮城	57,200	57,000	200	626	894	103	9,801	2,757	1	2,186	9,525	5,421	436	0	2,144
秋田	69,900	69,100	800	8,264	500	329	4,265	1,235	2	182	8,701	1,968	3,290	0	3,955
山形	52,400	52,700	▲ 300	4,516	440	112	5,138	1,239	4	73	4,655	2,375	4,337	1	3,484
福島	53,100	51,900	1,200	448	142	12	11,722	1,079	1	333	907	1,598	1,499	84	4,753
茨城	57,800	58,300	▲ 500	947	762	55	13,886	653	3	4,037	776	491	311	1	217
栃木	47,200	46,100	1,100	1,513	70	1,418	15,069	2,177	4	7,442	419	3,046	1,208	6	1,149
群馬	12,400	12,400	0	1,389	0	168	1,661	621	-	2,185	118	173	33	0	-
埼玉	27,500	27,400	100	144	52	769	3,605	124	-	1,877	383	158	50	6	43
千葉	45,800	45,500	300	1,672	35	135	10,154	1,316	-	440	262	312	2	1	122
東京	111	115	▲ 4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,850	2,880	▲ 30	-	-	-	13	2	-	4	6	4	0	-	-
新潟	100,600	99,900	700	7,093	1,586	1,784	4,032	533	1	189	3,996	296	845	-	4,559
富山	31,200	31,300	▲ 100	1,220	342	266	2,096	480	-	2,834	4,165	329	250	22	2,202
石川	20,800	20,700	100	481	65	371	1,131	127	-	1,198	981	27	141	-	1,629
福井	21,500	21,600	▲ 100	322	132	213	1,976	160	-	5,210	76	43	480	-	1,218
山梨	4,660	4,690	▲ 30	62	-	29	21	18	-	62	99	23	103	0	-
長野	29,300	29,800	▲ 500	733	245	24	429	265	-	2,543	670	590	2,211	0	257
岐阜	19,700	20,000	▲ 300	741	78	65	3,496	303	-	3,689	359	521	259	6	94
静岡	15,000	15,000	0	105	1	8	1,011	330	-	244	38	40	28	-	4
愛知	24,700	25,200	▲ 500	573	44	278	2,040	182	-	5,646	70	133	7	11	176
三重	24,900	25,200	▲ 300	168	54	95	2,426	303	-	7,050	188	169	19	9	53

(ha)

備蓄米

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

※麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねについては畑地化面積を含まない。

令和5年産の水田における作付状況（令和5年9月30日時点）②

都道府県	主食用米			戦略作物等										備蓄米	
	①	【参考】		加工用米	新規需要米					麦	大豆	飼料作物	そば		なたね
		前年産 (4年産) ②	増減 ①-②		新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 稲発酵 粗飼料用稲	その他						
滋賀	27,000	27,700	▲ 700	608	205	58	2,033	310	-	8,222	591	158	110	11	282
京都	13,200	13,400	▲ 200	551	25	10	133	158	-	290	266	47	134	-	-
大阪	4,430	4,540	▲ 110	0	-	5	6	4	-	2	8	1	-	-	-
兵庫	32,500	32,800	▲ 300	674	185	48	819	972	6	1,931	1,658	792	125	12	-
奈良	8,200	8,350	▲ 150	19	-	36	50	43	-	68	22	5	1	0	-
和歌山	5,780	5,980	▲ 200	-	-	1	3	4	-	4	11	3	2	-	-
鳥取	11,700	12,000	▲ 300	25	33	0	821	392	0	68	619	845	330	1	79
島根	15,900	16,100	▲ 200	252	2	7	804	745	1	281	629	487	302	4	26
岡山	26,900	27,100	▲ 200	295	189	120	1,824	475	-	1,269	1,116	911	129	1	152
広島	20,500	21,100	▲ 600	351	44	96	443	708	0	318	226	930	252	0	10
山口	16,000	16,600	▲ 600	976	86	43	1,108	410	0	711	816	864	43	1	-
徳島	9,480	9,640	▲ 160	20	40	11	1,007	247	-	55	7	99	2	-	198
香川	10,100	10,800	▲ 700	48	28	7	195	269	-	1,322	39	210	9	1	-
愛媛	12,800	13,000	▲ 200	34	-	6	344	217	-	430	313	241	2	-	-
高知	10,200	10,600	▲ 400	84	-	18	1,135	321	-	5	54	110	0	-	2
福岡	32,300	32,800	▲ 500	224	12	322	2,475	2,068	-	1,140	7,773	450	43	0	11
佐賀	21,700	22,300	▲ 600	406	8	19	829	2,246	-	1,411	6,241	430	12	2	42
長崎	10,000	10,400	▲ 400	6	10	4	117	1,549	1	78	256	2,053	34	2	-
熊本	28,900	30,200	▲ 1,300	672	41	309	1,646	9,167	24	795	2,238	1,922	179	12	66
大分	18,100	18,800	▲ 700	148	2	13	1,932	2,758	-	693	1,317	948	95	2	19
宮崎	12,700	13,400	▲ 700	1,978	22	22	887	7,207	23	18	207	3,109	62	-	-
鹿児島	15,800	16,600	▲ 800	1,389	1	12	880	4,081	1	75	310	1,985	40	2	-
沖縄	545	604	▲ 59	30	-	2	3	22	-	-	-	20	-	-	-

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

※麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねについては畑地化面積を含まない。

基本指針の変更のポイント（令和5年10月）

前回（7月31日）

○ 令和4/5年の主食用米等の需給実績（速報値）

（基本指針の図1「令和4/5年の需要実績」に基づき作成）

（令和2年産米のコロナ影響緩和特別対策（特別枠）を除いた場合の見通し）

		(単位:万トン)	
令和4年6月末民間在庫量	A	218	→ 209 <<9>>
令和4年産主食用米等生産量	B	670	
令和4/5年主食用米等供給量計	C=A+B	888	→ 879 <<9>>
令和4/5年主食用米等需要量	D	691	
令和5年6月末民間在庫量	E=C-D	197	→ 194 <<3>>

① ・在庫量の確定

○ 令和5/6年の主食用米等の需給見通し

(単位:万トン)

令和5年6月末民間在庫量	E	197	→ 194 <<3>>
令和5年産主食用米等生産量	F	669	
令和5/6年主食用米等供給量計	G=E+F	866	
令和5/6年主食用米等需要量	H	681	
令和6年6月末民間在庫量	I=G-H	184	

② ・令和5年9月25日現在の予想収穫量に基づく変更

③

④ ・1人当たりの消費量に人口を乗じる手法により推計（最新値に更新）

注1：令和5/6年主食用米等需要量は、過去のデータを用いてトレンドで算出した令和5/6年の1人当たり消費量（推計値）に、令和5年の人口（推計値）を乗じて算出した値であり、今後の価格動向等によっては、変動する可能性がある。
 注2：欄外の記載は、コロナ影響緩和特別対策（特別枠）に取り組む令和2年産米を除いた場合の見通しであり、<<>書きは特別枠に係る取組数量。
 注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

今回（10月19日）

○ 令和4/5年の主食用米等の需給実績（確定値）

（基本指針の図1「令和4/5年の需要実績」に基づき作成）

（令和2年産米のコロナ影響緩和特別対策（特別枠）を除いた場合の見通し）

		(単位:万トン)	
令和4年6月末民間在庫量	A	218	→ 209 <<9>>
令和4年産主食用米等生産量	B	670	
令和4/5年主食用米等供給量計	C=A+B	888	→ 879 <<9>>
令和4/5年主食用米等需要量	D	691	
令和5年6月末民間在庫量	E=C-D	197	→ 194 <<3>>

○ 令和5/6年の主食用米等の需給見通し

(単位:万トン)

令和5年6月末民間在庫量	E	197	→ 194 <<3>>
令和5年産主食用米等生産量	F	662	
令和5/6年主食用米等供給量計	G=E+F	859	
令和5/6年主食用米等需要量	H	682	
令和6年6月末民間在庫量	I=G-H	177	

⑤ ・令和5年産の生産量の見通しと同水準の生産量

⑥ ・1人当たりの消費量に人口を乗じる手法により推計

○ 令和6/7年の主食用米等の需給見通し

(単位:万トン)

令和6年6月末民間在庫量	I	177	
令和6年産主食用米等生産量	J	669	
令和6/7年主食用米等供給量計	K=I+J	847	
令和6/7年主食用米等需要量	L	671	
令和7年6月末民間在庫量	M=K-L	176	

注1：欄外の記載は、コロナ影響緩和特別対策（特別枠）に取り組む令和2年産米を除いた場合の見通しであり、<<>書きは特別枠に係る取組数量。
 注2：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。
 注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

米の販売数量及び民間在庫の推移（令和5年12月）

- 令和5年12月の米の販売数量の対前年同月比は、小売事業者向けで+4%、中食・外食事業者向けは+2%となっており、販売数量の計では+3%となっている。また、5年1月～12月の対前年比は、小売事業者向けで+2%、中食・外食事業者向けは+5%となっており、販売数量の計では+3%となっている。
- 令和5年12月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年差▲29万トンの299万トンとなっており、出荷段階は対前年差▲29万トンの247万トン、販売段階は対前年差±0万トンの52万トンとなっている。

【米穀販売事業者における販売数量の動向(前年同月比)(速報)】

	4年1月 ～12月計	5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年1月 ～12月計
小売事業者向け	98%	100%	101%	98%	101%	107%	100%	102%	104%	103%	105%	105%	104%	102%
(※令和元年との比較)	(101%)	(104%)	(103%)	(102%)	(101%)	(108%)	(101%)	(99%)	(107%)	(100%)	(102%)	(104%)	(108%)	(103%)
中食・外食事業者等向け	104%	103%	107%	103%	102%	106%	104%	107%	106%	105%	105%	105%	102%	105%
(※令和元年との比較)	(94%)	(93%)	(94%)	(94%)	(95%)	(99%)	(99%)	(97%)	(97%)	(102%)	(100%)	(100%)	(98%)	(97%)
販売数量計	101%	101%	104%	100%	101%	107%	102%	104%	105%	104%	105%	105%	103%	103%
(※令和元年との比較)	(98%)	(99%)	(99%)	(98%)	(98%)	(104%)	(101%)	(98%)	(102%)	(101%)	(101%)	(102%)	(103%)	(101%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの以上の販売事業者（年間取扱数量約150万ト（令和4年産主食用米等の生産量670万トの約2割））である。

注2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

注3：令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年（4月までは平成31年）の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移(家計調査)】

(単位：Kg、%)

	4年1月 ～12月計	5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年1月 ～12月計	
米	購入数量	57.38	3.72	4.06	4.25	4.51	4.45	4.23	4.39	4.44	6.06	6.75	4.49	5.29	56.65
	前年同期比	94.4%	94.2%	98.1%	91.4%	99.3%	101.6%	98.8%	100.9%	102.1%	100.5%	93.2%	97.8%	109.1%	98.7%
パン	前年同期比	98.3%	96.9%	102.8%	93.5%	99.1%	95.2%	100.2%	93.0%	95.7%	101.1%	100.3%	96.3%	101.6%	98.0%
	前年同期比	98.2%	98.0%	87.3%	90.7%	93.1%	95.8%	95.2%	94.1%	101.0%	91.5%	91.1%	94.9%	92.3%	93.8%

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移(出荷+販売段階)(速報)】

(単位：万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	
4/5年	出荷+販売段階	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
	出荷段階	116	98	166	262	277	276	259	236	204	176	149	121
	販売段階	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33
5/6年	出荷+販売段階	123	105	199	289	304	299						
	対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲29						
	出荷段階	95	78	162	236	250	247						
	対前年差	▲21	▲19	▲5	▲26	▲27	▲29						
	販売段階	27	26	38	54	54	52						
対前年差	+1	+2	+5	+3	+2	±0							

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

注2：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

注3：期間については、5/6年であれば、令和5年7月～6年6月である。

産地別民間在庫の状況（令和5年12月）

（単位：千玄米トン）

	4年	4年	5年	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	5年	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
	11月 ① (千玄米トン)	12月 ② (千玄米トン)	11月 ③ (千玄米トン)			12月 ⑥ (千玄米トン)		
北海道	331.4	342.0	284.2	▲ 47.2	▲ 14.3%	280.6	▲ 61.3	▲ 17.9%
青森	149.2	147.1	147.0	▲ 2.3	▲ 1.5%	144.1	▲ 3.0	▲ 2.0%
岩手	135.5	160.9	123.4	▲ 12.1	▲ 8.9%	135.8	▲ 25.1	▲ 15.6%
宮城	182.3	178.9	163.8	▲ 18.5	▲ 10.1%	168.7	▲ 10.2	▲ 5.7%
秋田	267.3	256.1	230.4	▲ 36.9	▲ 13.8%	229.3	▲ 26.8	▲ 10.5%
山形	188.3	196.7	181.2	▲ 7.0	▲ 3.7%	184.8	▲ 11.9	▲ 6.0%
福島	176.7	172.8	180.1	+ 3.4	+ 1.9%	182.7	+ 10.0	+ 5.8%
茨城	141.2	133.1	134.7	▲ 6.5	▲ 4.6%	124.8	▲ 8.4	▲ 6.3%
栃木	170.9	166.7	153.0	▲ 17.8	▲ 10.4%	151.9	▲ 14.8	▲ 8.9%
群馬	19.7	27.6	15.5	▲ 4.2	▲ 21.2%	18.5	▲ 9.2	▲ 33.2%
埼玉	42.7	42.1	34.4	▲ 8.3	▲ 19.5%	34.4	▲ 7.7	▲ 18.4%
千葉	78.7	70.4	71.8	▲ 6.9	▲ 8.8%	63.9	▲ 6.5	▲ 9.2%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	2.6	2.5	2.7	+ 0.1	+ 4.3%	2.6	+ 0.0	+ 0.7%
山梨	4.0	5.0	4.4	+ 0.4	+ 9.8%	5.3	+ 0.3	+ 6.0%
長野	78.1	75.8	79.2	+ 1.0	+ 1.3%	75.8	+ 0.0	+ 0.0%
静岡	21.6	20.0	24.8	+ 3.2	+ 14.8%	22.6	+ 2.7	+ 13.3%
新潟	293.7	266.6	298.4	+ 4.7	+ 1.6%	271.5	+ 4.9	+ 1.8%
富山	97.6	95.2	95.1	▲ 2.5	▲ 2.6%	88.3	▲ 6.9	▲ 7.2%
石川	78.6	71.8	79.2	+ 0.6	+ 0.8%	69.5	▲ 2.2	▲ 3.1%
福井	62.7	55.1	51.3	▲ 11.4	▲ 18.1%	46.4	▲ 8.8	▲ 15.9%
岐阜	24.9	33.9	29.3	+ 4.3	+ 17.4%	34.2	+ 0.3	+ 0.9%
愛知	36.2	39.1	32.3	▲ 3.9	▲ 10.8%	34.9	▲ 4.2	▲ 10.7%
三重	41.7	38.8	39.1	▲ 2.7	▲ 6.4%	34.9	▲ 3.9	▲ 10.1%

	4年	4年	5年	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	5年	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
	11月 ① (千玄米トン)	12月 ② (千玄米トン)	11月 ③ (千玄米トン)			12月 ⑥ (千玄米トン)		
滋賀	64.5	59.3	55.6	▲ 9.0	▲ 13.9%	51.2	▲ 8.1	▲ 13.6%
京都	13.0	12.3	11.0	▲ 2.0	▲ 15.7%	10.4	▲ 1.9	▲ 15.4%
大阪	1.3	2.6	0.8	▲ 0.5	▲ 37.6%	1.9	▲ 0.6	▲ 24.8%
兵庫	50.4	49.5	45.4	▲ 5.0	▲ 9.9%	46.9	▲ 2.6	▲ 5.3%
奈良	12.8	12.4	11.7	▲ 1.1	▲ 8.5%	11.3	▲ 1.1	▲ 9.0%
和歌山	2.3	2.4	2.2	▲ 0.1	▲ 3.4%	2.2	▲ 0.2	▲ 7.7%
鳥取	26.2	29.9	21.3	▲ 4.8	▲ 18.5%	25.6	▲ 4.3	▲ 14.3%
島根	28.6	31.4	24.1	▲ 4.5	▲ 15.8%	26.7	▲ 4.7	▲ 14.9%
岡山	40.6	43.5	36.9	▲ 3.7	▲ 9.0%	37.9	▲ 5.5	▲ 12.7%
広島	46.6	43.3	47.9	+ 1.3	+ 2.9%	40.5	▲ 2.8	▲ 6.5%
山口	40.8	41.5	36.3	▲ 4.5	▲ 11.1%	34.7	▲ 6.8	▲ 16.4%
徳島	12.4	10.9	9.2	▲ 3.2	▲ 25.5%	7.6	▲ 3.3	▲ 30.2%
香川	17.4	18.9	17.8	+ 0.4	+ 2.5%	16.1	▲ 2.9	▲ 15.2%
愛媛	17.0	16.1	16.5	▲ 0.5	▲ 2.9%	15.7	▲ 0.4	▲ 2.4%
高知	11.3	10.4	9.1	▲ 2.2	▲ 19.7%	8.2	▲ 2.2	▲ 21.1%
福岡	66.1	74.0	60.1	▲ 6.0	▲ 9.0%	67.5	▲ 6.4	▲ 8.7%
佐賀	30.1	30.5	28.7	▲ 1.4	▲ 4.7%	31.4	+ 0.9	+ 2.9%
長崎	9.8	10.3	8.4	▲ 1.4	▲ 14.2%	8.8	▲ 1.5	▲ 14.9%
熊本	45.1	50.4	38.9	▲ 6.2	▲ 13.8%	45.5	▲ 4.8	▲ 9.6%
大分	20.1	22.1	18.9	▲ 1.2	▲ 5.8%	17.8	▲ 4.3	▲ 19.6%
宮崎	13.9	15.7	8.1	▲ 5.8	▲ 41.6%	9.2	▲ 6.5	▲ 41.4%
鹿児島	26.8	25.6	19.3	▲ 7.5	▲ 27.9%	17.5	▲ 8.1	▲ 31.7%
沖縄	0.3	0.2	0.2	▲ 0.1	▲ 27.1%	0.2	▲ 0.1	▲ 26.3%
全国	330万ト	328万ト	304万ト	▲ 26万ト	▲ 7.9%	299万ト	▲ 29万ト	▲ 8.8%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

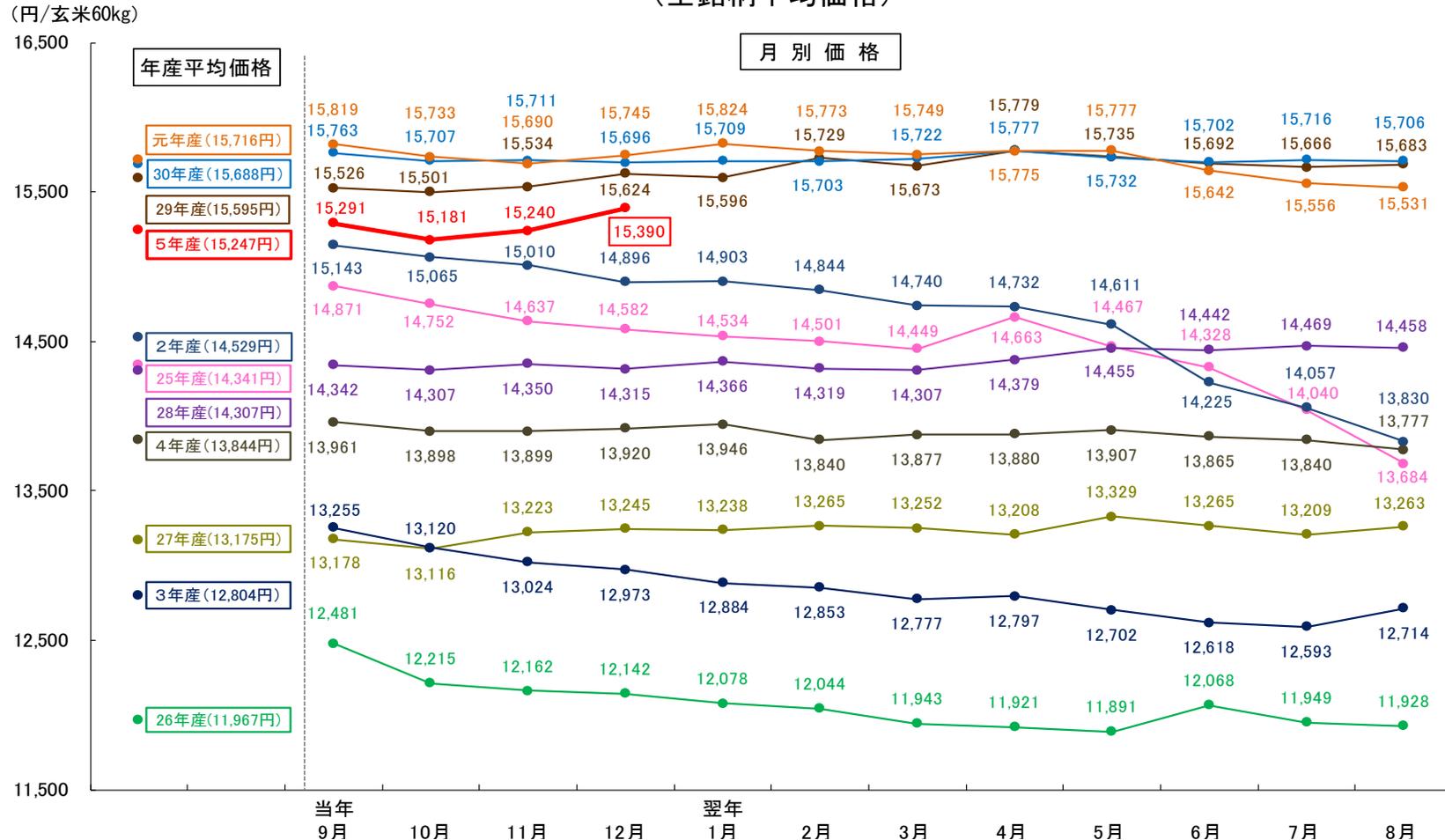
注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

相対取引価格の推移（平成25年産～令和5年産）

○ 令和5年産米の令和5年12月の相対取引価格は、全銘柄平均で前月差+150円の15,390円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産+1,403円の15,247円/60kgとなったところ。

相対取引価格の推移（税込） （全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額（平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%）を含む1等米の価格である。

注2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（5年産は出回りから令和5年12月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

令和5年産米の相対取引価格（令和5年12月の年産平均価格）

（単位：円／玄米60kg（税込））

産地品種銘柄	令和5年産	令和4年産	価格差 ①－②	
	〔出回り～ 5年12月〕 ①	〔出回り～ 5年10月〕 ②		
北海道	ななつぼし	15,486	14,058	+ 1,428
北海道	ゆめぴりか	16,742	15,451	+ 1,291
北海道	きらら397	14,990	13,520	+ 1,470
青森	ましぐら	14,559	12,743	+ 1,816
青森	つがるロマン	15,309	12,986	+ 2,323
岩手	ひとめぼれ	15,083	13,619	+ 1,464
岩手	あきたこまち	15,162	13,420	+ 1,742
岩手	銀河のしずく	15,432	14,125	+ 1,307
宮城	ひとめぼれ	14,826	13,837	+ 989
宮城	つや姫	15,851	14,307	+ 1,544
宮城	ササニシキ	15,650	14,159	+ 1,491
秋田	あきたこまち	15,348	13,853	+ 1,495
秋田	ひとめぼれ	14,342	13,033	+ 1,309
秋田	めんこいな	14,054	12,819	+ 1,235
山形	はえぬき	14,681	12,963	+ 1,718
山形	つや姫	18,812	18,497	+ 315
山形	雪若丸	15,712	14,002	+ 1,710
福島	コシヒカリ（中通り）	14,673	12,728	+ 1,945
福島	コシヒカリ（会津）	15,531	14,468	+ 1,063
福島	コシヒカリ（浜通り）	14,720	12,999	+ 1,721
福島	ひとめぼれ	14,294	12,505	+ 1,789
福島	天のつば	13,722	12,230	+ 1,492
茨城	コシヒカリ	15,039	13,105	+ 1,934
茨城	あきたこまち	14,260	12,355	+ 1,905
茨城	ふくまる	14,384	12,437	+ 1,947
栃木	コシヒカリ	14,894	13,302	+ 1,592
栃木	とちぎの星	14,432	12,338	+ 2,094
栃木	あさひの夢	13,983	12,102	+ 1,881
群馬	あさひの夢	14,933	12,690	+ 2,243
群馬	ゆめまつり	-	12,621	-
埼玉	彩のかがやき	14,143	12,677	+ 1,466
埼玉	彩のきずな	14,378	12,699	+ 1,679
埼玉	コシヒカリ	14,757	13,118	+ 1,639
千葉	コシヒカリ	14,635	12,545	+ 2,090
千葉	ふさごがね	13,689	11,291	+ 2,398
千葉	ふさおとめ	13,945	11,346	+ 2,599
山梨	コシヒカリ	17,624	17,578	+ 46
長野	コシヒカリ	16,030	14,933	+ 1,097
長野	あきたこまち	15,068	14,129	+ 939
静岡	コシヒカリ	15,405	14,838	+ 567

産地品種銘柄	令和5年産	令和4年産	価格差 ①－②	
	〔出回り～ 5年12月〕 ①	〔出回り～ 5年10月〕 ②		
静岡	きぬむすめ	14,027	12,846	+ 1,181
静岡	にこまる	-	-	-
新潟	コシヒカリ（一般）	17,005	16,553	+ 452
新潟	コシヒカリ（魚沼）	20,885	21,021	▲ 136
新潟	コシヒカリ（佐渡）	17,435	17,037	+ 398
新潟	コシヒカリ（岩船）	17,189	16,922	+ 267
新潟	こしいぶき	14,656	13,286	+ 1,370
富山	コシヒカリ	15,722	14,984	+ 738
富山	てんたかく	14,989	13,474	+ 1,515
石川	コシヒカリ	15,801	14,383	+ 1,418
石川	ゆめみづほ	14,473	12,870	+ 1,603
福井	コシヒカリ	15,397	14,160	+ 1,237
福井	ハチエチゼン	13,955	12,474	+ 1,481
福井	あきさかり	14,236	12,744	+ 1,492
岐阜	ハツシモ	15,089	13,726	+ 1,363
岐阜	コシヒカリ	16,192	14,962	+ 1,230
岐阜	ほしじるし	13,809	13,476	+ 333
愛知	あいちのかおり	14,339	12,987	+ 1,352
愛知	コシヒカリ	-	13,741	-
愛知	大地の風	-	12,806	-
三重	コシヒカリ（一般）	14,775	13,220	+ 1,555
三重	コシヒカリ（伊賀）	15,082	13,660	+ 1,422
三重	キヌヒカリ	13,614	12,019	+ 1,595
滋賀	コシヒカリ	15,202	13,941	+ 1,261
滋賀	キヌヒカリ	13,932	12,347	+ 1,585
滋賀	みずかがみ	14,888	13,455	+ 1,433
京都	コシヒカリ	15,546	14,379	+ 1,167
京都	ヒノヒカリ	16,347	15,056	+ 1,291
京都	キヌヒカリ	14,068	12,688	+ 1,380
兵庫	コシヒカリ	16,788	15,007	+ 1,781
兵庫	ヒノヒカリ	13,894	12,617	+ 1,277
兵庫	キヌヒカリ	13,855	12,511	+ 1,344
奈良	ヒノヒカリ	14,268	12,989	+ 1,279
鳥取	きぬむすめ	14,345	12,692	+ 1,653
鳥取	コシヒカリ	14,927	13,426	+ 1,501
鳥取	ひとめぼれ	14,178	12,783	+ 1,395
鳥根	きぬむすめ	14,161	13,102	+ 1,059
鳥根	コシヒカリ	14,942	14,021	+ 921
鳥根	つや姫	14,765	13,900	+ 865
岡山	アケボノ	13,106	10,973	+ 2,133

産地品種銘柄	令和5年産	令和4年産	価格差 ①－②	
	〔出回り～ 5年12月〕 ①	〔出回り～ 5年10月〕 ②		
岡山	きぬむすめ	13,626	12,120	+ 1,506
岡山	コシヒカリ	14,241	12,988	+ 1,253
広島	コシヒカリ	14,368	13,453	+ 915
広島	あきさかり	13,495	12,278	+ 1,217
広島	あきろまん	13,353	12,600	+ 753
山口	コシヒカリ	14,851	14,061	+ 790
山口	ひとめぼれ	14,020	13,084	+ 936
山口	きぬむすめ	13,962	-	-
徳島	コシヒカリ	14,137	12,978	+ 1,159
徳島	あきさかり	13,489	11,601	+ 1,888
香川	コシヒカリ	15,325	14,213	+ 1,112
香川	ヒノヒカリ	14,569	13,457	+ 1,112
香川	あきさかり	14,245	-	-
愛媛	コシヒカリ	14,258	13,179	+ 1,079
愛媛	ヒノヒカリ	13,585	12,579	+ 1,006
愛媛	あきたこまち	13,484	12,506	+ 978
高知	コシヒカリ	14,925	13,494	+ 1,431
高知	ヒノヒカリ	13,634	12,522	+ 1,112
福岡	夢つくし	15,521	14,504	+ 1,017
福岡	ヒノヒカリ	14,515	13,245	+ 1,270
福岡	元気つくし	15,442	14,478	+ 964
佐賀	さがびより	15,127	14,031	+ 1,096
佐賀	夢しずく	14,569	13,538	+ 1,031
佐賀	ヒノヒカリ	14,440	12,462	+ 1,978
長崎	にこまる	14,093	12,954	+ 1,139
長崎	なつほのか	13,847	12,698	+ 1,149
長崎	ヒノヒカリ	13,866	12,595	+ 1,271
熊本	ヒノヒカリ	14,551	12,822	+ 1,729
熊本	森のくまさん	-	12,465	-
熊本	コシヒカリ	15,092	13,791	+ 1,301
大分	ヒノヒカリ	14,548	13,250	+ 1,298
大分	ひとめぼれ	14,496	13,201	+ 1,295
大分	つや姫	15,054	13,861	+ 1,193
宮崎	コシヒカリ	14,582	13,815	+ 767
宮崎	ヒノヒカリ	-	14,276	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	13,878	-
鹿児島	あきほなみ	-	14,479	-
鹿児島	コシヒカリ	14,670	14,172	+ 498
全銘柄平均価格				
		15,247	13,844	+ 1,403

注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格（令和5年産は出回りから5年12月までの速報値）であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者（年間の販売数量5,000トン以上等）。

2：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

3：「-」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

令和5年産水稲うるち玄米農産物検査結果（令和5年12月31日時点）

- 令和5年産米の検査数量は、12月末現在382万トン（前年同期388万トン）。前年の検査数量452万トンと比較して84.5%の進捗率。
- 高温・渇水の影響による白未熟粒の発生等により1等比率は全国で61.3%（前年同期78.6%より17.3%低下）。
- 一方で、高温耐性品種の検査等級は、1及び2等の比率はおおむね9割以上。

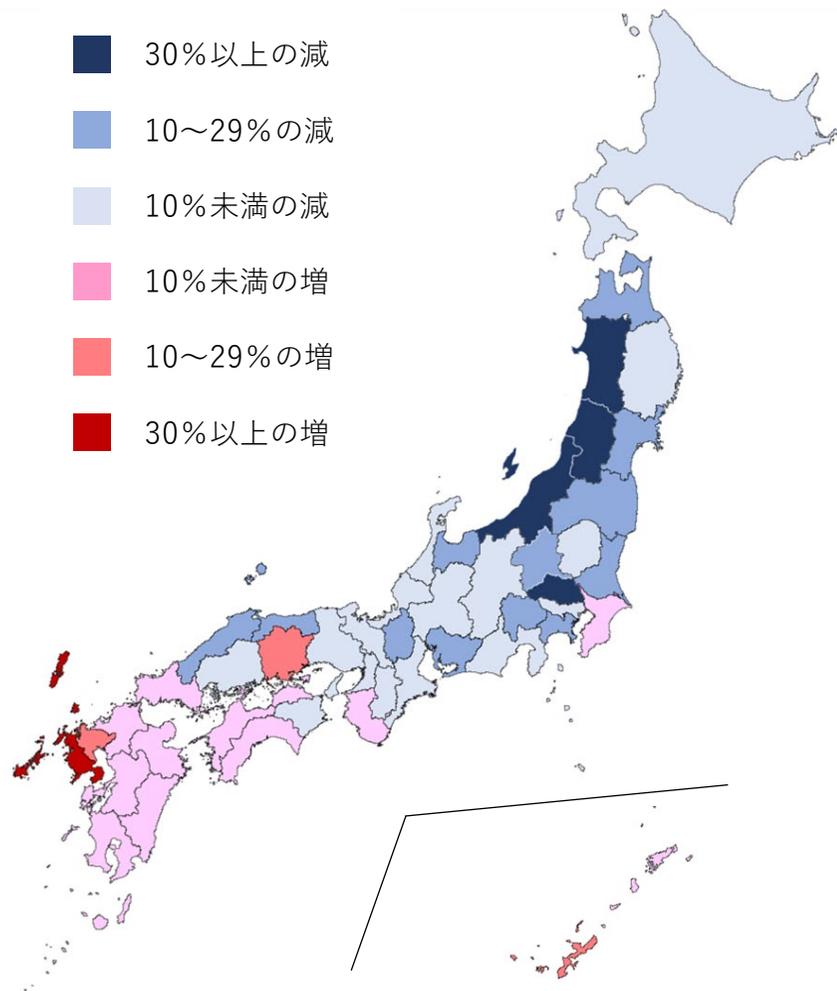
【全国の検査結果に占める1等比率】

(%)

	5年産	4年産	3年産	2年産	元年産
8月末現在	68.9	68.0	76.1	74.3	67.8
9月末現在	59.6	75.8	82.6	80.7	67.6
10月末現在	61.3	79.4	83.6	80.8	72.9
11月末現在	61.2	78.7	83.1	80.3	73.1
12月末現在	61.3	78.6	83.1	80.1	73.1
最終	-	78.6	83.1	79.8	73.2

※元年産～4年産の最終は確定値

【1等比率の前年同期比較】



【N県における品種別検査結果】

品種名	高温耐性	検査数量 (トン)	等級別比率 (%)			
			1等	2等	3等	規格外
コシヒカリ	なし	254,649	5.0	42.0	49.5	3.5
			47.0			
こしいぶき	あり	76,460	14.0	75.8	9.8	0.4
			89.8			
ゆきん子舞	あり	22,085	61.6	33.7	3.9	0.8
			95.3			
新之助	あり	23,587	94.7	4.5	0.2	0.5
			99.2			
にじのきらめき	あり	5,309	17.8	72.3	9.3	0.7
			90.1			

※四捨五入の関係で合計値が一致しないことがある

令和5年産水稻うるち玄米 等級別検査数量 (令和5年12月31日現在)

(単位:%)

	等級比率				1等比率	
	1等	2等	3等	規格外	前年同期	5力年平均 (H30-R4)
北海道	87.2	7.3	1.9	3.7	91.6	89.8
青森	69.4	28.8	1.6	0.2	91.8	92.8
岩手	91.5	7.8	0.6	0.1	96.7	96.0
宮城	83.1	14.8	1.5	0.6	95.3	88.0
秋田	55.9	37.0	5.6	1.5	88.7	89.7
山形	45.0	52.4	2.1	0.5	95.1	94.2
福島	76.1	22.0	1.7	0.2	95.0	92.9
茨城	56.3	38.7	4.7	0.4	67.4	80.1
栃木	84.2	14.3	1.0	0.5	93.3	93.4
群馬	60.9	33.7	5.2	0.2	90.7	89.1
埼玉	28.0	34.6	24.1	13.4	66.3	66.0
千葉	87.6	11.1	1.0	0.4	86.9	88.6
東京	-	5.7	90.0	4.3	-	-
神奈川	14.8	79.1	5.9	0.2	43.4	37.6
山梨	71.4	24.8	3.5	0.2	82.2	84.2
長野	91.2	7.7	1.0	0.1	96.5	96.0
静岡	76.3	18.5	4.7	0.6	81.3	80.4
新潟	15.6	47.1	34.3	2.9	74.8	67.9
富山	60.6	33.3	5.6	0.5	86.8	89.2
石川	79.4	18.3	1.8	0.5	82.5	87.3
福井	83.7	11.1	2.2	3.1	87.6	85.1
岐阜	53.1	40.2	4.6	2.1	53.7	59.5
愛知	39.9	43.5	15.7	0.8	57.2	55.0
三重	30.9	65.0	3.8	0.3	40.3	36.3

	等級比率				1等比率	
	1等	2等	3等	規格外	前年同期	5力年平均 (H30-R4)
滋賀	54.4	42.7	2.7	0.2	66.2	66.2
京都	57.7	32.9	8.7	0.7	66.5	65.7
大阪	42.3	43.7	13.5	0.5	49.8	47.3
兵庫	41.3	49.7	8.4	0.5	43.8	54.3
奈良	87.6	10.1	1.9	0.5	92.8	89.2
和歌山	28.7	55.4	14.3	1.6	26.1	29.0
鳥取	49.3	44.8	5.6	0.3	60.1	53.4
島根	55.7	33.2	8.9	2.2	66.3	68.2
岡山	74.3	22.6	2.4	0.7	54.8	67.9
広島	85.0	13.3	1.5	0.2	85.6	85.0
山口	76.1	20.7	2.8	0.4	74.5	73.7
徳島	42.2	49.7	7.0	1.1	45.8	42.9
香川	15.9	78.8	5.1	0.3	14.1	23.5
愛媛	45.1	49.6	4.0	1.4	38.1	39.9
高知	19.1	66.1	12.6	2.2	15.1	18.0
福岡	22.0	70.1	4.8	3.2	17.5	22.7
佐賀	69.6	27.2	1.2	2.0	45.3	46.1
長崎	54.7	40.9	3.6	0.8	16.4	34.1
熊本	32.5	59.6	5.1	2.7	30.8	29.3
大分	56.5	38.6	4.2	0.7	46.5	51.5
宮崎	41.2	34.1	22.5	2.3	36.4	48.3
鹿児島	34.9	50.1	13.6	1.4	26.9	41.3
沖縄	56.2	30.2	9.5	4.0	44.2	51.2
全国	61.3	30.3	7.0	1.5	78.6	79.0

注 1) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。
 2) 「0」は単位に満たないもの、「-」は事実がないものを示している。
 3) 「5力年平均」は、平成30年産から令和4年産の確定値による平均値。

各道府県農業再生協議会等が作成した令和6年産主食用米の生産の目安等

令和6年1月12日時点（「米に関するマンスリーレポート（資料編）（令和6年1月）」抜粋）
※ 詳細はP17～21参照

（各都道府県農業再生協議会総会資料等から抜粋）

いわゆる「生産の目安等」については、各県の農業再生協議会等において、国の需給見通しや産地の需要動向等を踏まえて主体的に作成されており、その名称や定義は各県ごとに様々である。令和6年産の作成の考え方により大別すると、おおよそ以下のとおり類型化できる。

（1）国の基本指針における生産量の見通し等を踏まえて算出（24県）

① 国の基本指針における生産量の見通しに各県別の生産数量目標の県シェア等に乗じるなどして算出（7県）

茨城県、埼玉県、山梨県、岐阜県、愛媛県、長崎県、沖縄県

② 国の基本指針における生産量の見通しの対前年増減率を前年目安に乗じるなどして算出（11県）

岩手県、群馬県、千葉県、石川県、長野県、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県、佐賀県、宮崎県

③ ①、②に需要動向、在庫状況等を加味して算出（6県）

宮城県、秋田県、山形県、栃木県、静岡県、高知県

（2）国の基本指針における生産量の見通し等を考慮しつつ地域協議会による需要動向の積上げや独自の需要見込み等により算出(18県)

北海道、青森県、福島県、新潟県、富山県、福井県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県、鳥取県、
広島県、香川県、福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県

※ 徳島県は1月中に決定予定。東京都、神奈川県、大阪府及び島根県は目安等を作成していない。

令和5年夏の高温・渇水の影響と対応について

- 令和5年は、梅雨明け以降、北・東日本を中心に記録的な高温で推移。
- このため、出穂期以降の高温による白未熟粒の発生などが懸念された各県においては、品質低下を防ぐための追肥や水管理・適期収穫等の対応を強化。加えて、一部地域では少雨による渇水のため、灌水(※)や消雪用井戸の活用等も実施。
- 地球温暖化に伴い高温傾向が続くことが見込まれることから、高温耐性品種の拡大を進める必要。

※灌水：用水の受益地区をいくつかに分け、区分した地区ごと、または圃場ごとに順番と時間を決めて、数日ごとに配水する方法。

【高温・渇水による農作物への影響】

・米：白未熟粒の発生



・トマト：裂果の発生



・リンゴ：日焼け果の発生



○米の高温耐性品種の作付状況



品種名	作付面積 (令和4年産)	作付けの多い上位3都道府県	品種名	作付面積 (令和4年産)	作付けの多い上位3都道府県
きぬむすめ	22,656ha	鳥根、岡山、鳥取	さがびより	6,060ha	佐賀
こしいぶき	19,600ha	新潟	ゆきん子舞	5,200ha	新潟
つや姫	17,303ha	山形、宮城、鳥根	ふさおとめ	4,800ha	千葉
ふさこがね	11,900ha	千葉	なつほのか	4,058ha	長崎、大分、鹿児島
あきさかり	7,658ha	広島、徳島、福井	新之助	4,000ha	新潟
にこまる	7,495ha	長崎、愛媛、岡山	雪若丸	4,000ha	山形
とちぎの星	7,200ha	栃木	てんたかく	3,802ha	富山
彩のきずな	6,500ha	埼玉	その他	21,185ha	
元気つくし	6,170ha	福岡	計	159,587ha	

【高温・渇水への対策】

- ・高温耐性品種の導入
- ・土づくり、追肥、水管理、適期収穫等の高温対策技術の実施
- ・灌水、消雪用井戸の活用、排水の反復利用等の渇水対策技術の実施

出典：農林水産省「地球温暖化影響調査レポート」

※1 高温耐性品種とは、高温にあっても玄米品質や収量が低下しにくい品種で、地球温暖化による影響に適応することを目的として導入された面積について、都道府県から報告があったものを取りまとめたもの。

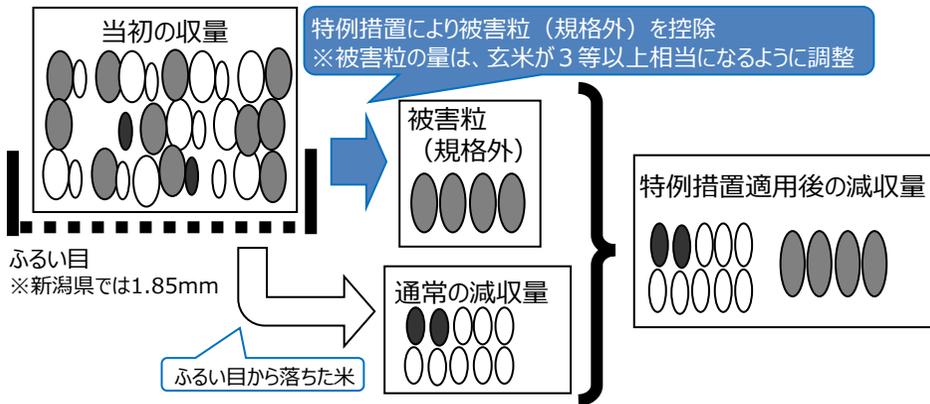
※2 作付面積には推計値も含まれる。

令和5年夏の高温・渇水被害に対する農水省の対応①

- 水稲共済では、品質低下による規格外の被害粒も減収量に含める特例措置が存在。また、収入保険では令和6年加入者より気象災害特例を措置し、災害等で収入が減少した年でも基準収入の8割まで補正。
- 高温による農作物の影響軽減のため、地域の実情や品目に応じた高温耐性品種や高温対策栽培技術の導入実証等を支援。

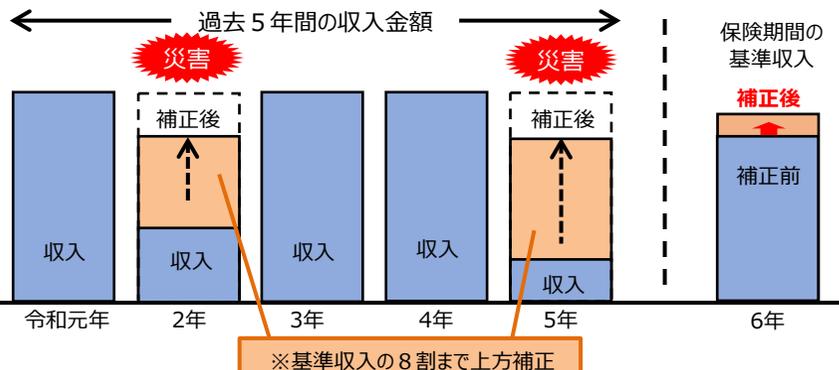
【農業保険による支援】

- 水稲共済の損害評価の特例措置（農業共済組合からの申請による）
 - ・品質低下による規格外の被害粒も減収量に含める



○ 収入保険に係る気象災害特例

- ・令和6年加入者より気象災害特例を措置し、災害等で収入が減少した年でも基準収入の8割まで補正



【高温対策栽培体系への転換等】

○ 高温対策栽培体系への転換支援: 3億円【R5補正】

- ・高温耐性品種への転換や栽培技術の導入実証にかかる物財費を支援（1/2以内）
- 〔例: 実証圃の借上げ、種子・苗、遮光ネット等の生産資材、土壌分析、堆肥施用による土づくり、生産物の分析・調査等〕



○ 産地生産基盤パワーアップ事業: 310億円の内数【R5補正】

- ・高温対策に必要となる機械・設備の導入や堆肥施用による土づくりの実証等を支援（1/2以内、定額）



土づくりの実証



追肥ドローン



色彩選別機

○ 農業競争力強化基盤整備事業等: 460億円の内数【R5補正】

- ・揚水機場、貯水池整備等（1/2等）



貯水池整備

○ 災害復旧事業: 397億円の内数【R5補正】

- ・渇水等により深刻な水田のひび割れが発生した場合に、復旧を支援（1/2等）

令和5年夏の高温・渇水被害に対する農水省の対応②

- 令和5年夏の高温・渇水の影響を受け、白未熟粒が多発し、米の農産物検査における1等比率が低下している地域も発生。
- 農産物検査の等級は、精米する際の歩留まりの目安であり、おいしさの格付けではない。
- 白未熟粒は、精米過程で除去される場合が多いが、乳白色になった粒が多いお米についても、早炊きモードの使用や水加減を少なくすることなどによりおいしく炊けることを農水省公式YouTubeチャンネル「BUZZ MAFF（バズマフ）」「maffchannel（マフチャンネル）」にて情報発信。

【BUZZMAFF】

- ・猛暑による影響とおいしく食べる方法について、農水省職員が出演した60秒程度のショート動画を作成
- ・早炊きモードの使用や通常よりも水を少なめに炊くと、乳白色の粒が多い米もおいしく食べられることを情報発信（1/16(火)16時時点 再生回数1万）

【maffchannel】

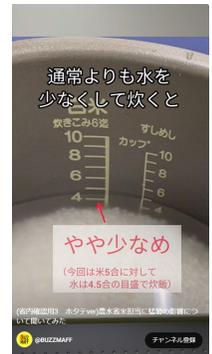
- ・米の食味の専門家の大坪研一教授、お米マイスターの澁谷梨絵さんにも出演いただき、4分程度の動画を作成
- ・米の検査等級はおいしさの格付けではないことについて説明（1/16(火)16時時点 再生回数3,316）



新潟薬科大学
大坪研一教授



五ツ星お米マイスター
澁谷梨絵さん



～今年の猛暑とお米の食べ方について～

今年の新米は、猛暑で乳白色になっているものもあります。皆さんが目にするお米は精米されているので、気にならないかもしれませんが、もし、買われたお米が、「いつもより少し白いかな？」というときは、この動画を参考にしてください。

（参考）【JA系統の取組】

- ・JA全農が石川佳純さんを迎え、「新米試食会イベント」を開催
- ・令和5年産の新米を試食して食レポするほか、猛暑の影響を受けたお米について、専門家が炊き方などを紹介

日時：11/15(水)11時～12時

場所：アグベンチャーラボ（東京都千代田区大手町1-6-1）

(参考) 各道府県農業再生協議会等が作成した令和6年産主食用米の生産の目安等①

※ 詳細については、以下の各都道府県農業再生協議会等の窓口にお問合せください。
 ※ 「公表日等」欄に記載の日付は、各都道府県農業再生協議会が総会等にて目安を決定した日、または、プレスリリースを行った日。

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先														
北海道	「生産の目安」(公表日 2023/12/18) ○ 北海道の令和6年産の主食用米の生産の目安は、数量の目安として47万5,900トン、面積の目安として8万3,932haと設定。 ○ 北海道米の需給と価格の安定を図るため、国の需給見通しを踏まえ、農業団体等による販売計画、産地の作付意向、北海道米の民間在庫量の状況などを勘案し、令和5年産の生産実績を維持する水準で設定。	北海道農業再生協議会水田部会事務局 TEL011-204-5435 http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nsk/kome/suidenbukai.html														
青森	「生産数量目標」(公表日 2023/12/26) ○ 青森県「需要に応じた米の生産調整」に関する要領(平成29年9月制定)に基づき、各地域農業再生協議会、各農業協同組合及び青森県米穀集荷協同組合の傘下業者から青森県農業再生協議会に報告のあった地域ごとの生産計画数量の計を地域農業再生協議会別生産数量目標とし、その合計を県全体の生産数量目標とした。 生産数量目標【県全体】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">R6生産数量目標</th> <th colspan="2">R5生産数量目標</th> <th rowspan="2">R5作付面積</th> </tr> <tr> <th>面積換算値</th> <th></th> <th>面積換算値</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>204,649t</td> <td>33,908ha</td> <td>203,401t</td> <td>33,696ha</td> <td>33,800ha</td> </tr> </tbody> </table>	R6生産数量目標		R5生産数量目標		R5作付面積	面積換算値		面積換算値		204,649t	33,908ha	203,401t	33,696ha	33,800ha	青森県農産園芸課企画管理グループ TEL017-734-9479
R6生産数量目標		R5生産数量目標		R5作付面積												
面積換算値		面積換算値														
204,649t	33,908ha	203,401t	33,696ha	33,800ha												
岩手	「生産の目安」(公表日 2023/12/19) ○ 県全体の生産目安は、引き続き、需要に応じた主食用米の生産を推進する観点から、「米の需給及び価格の安定に関する基本指針(令和5年10月公表：農林水産省)」に準じ、令和5年産の生産目安と同じ生産量に設定。 令和6年産生産目安：235,980 トン(面積換算：43,700ha)	岩手県農林水産部農産園芸課 TEL019-629-5708														
宮城	「生産の目安」(公表日 2023/12/21) (1) 県の基本数量(A) 国が示す全国の需給見通し(主食用米等生産量)に、県産米シェアを乗じた数量を「県の基本数量」とする。 県産米シェアは、直近5カ年の需要実績シェアの5中3平均値から算出した4.7980...%とする。 基本数量(A) = 320,989 トン(669万トン×4.7980...%) (2) 事前契約の積み上げ(B) 地域農業再生協議会等から報告された「生産計画」を基に、R5年産の事前契約数量を集計し、新たな需要として増加した数量については、「県の基本数量」に積み上げる。(B) = 0 トン (3) 過剰在庫の解消(C) 過剰在庫が生じた場合や翌年産で過剰在庫が見込まれる場合は、解消の措置をとる。(C) = 0 トン (4) 「生産の目安」の算定 (A) + (B) + (C) = 320,989 トン(面積換算：59,435ha) (5) 考慮すべき調整要素 ① 全国の主食用米の需給状況 ② 県内の転換作物等の定着状況 ③ 令和5年産の県産主食用米生産量 以上を踏まえ、▲2,500haの調整が必要。 (6) (4)に(5)の要素を勘案し、令和6年産主食用米の「生産の目安」とする。 59,435ha - 2,500ha = 56,935ha(307,489 トン) 令和5年産の「生産の目安」と同面積とする。	宮城県農業再生協議会 (事務局：宮城県農政部みやぎ米推進課) TEL022-211-2842														

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先
秋田	「生産の目安」(公表日 2023/12/5) ○ 県全体の「生産の目安」 「全国生産量(669万トン)と県産米シェアから算出した数値」と「県産米需給動向と適正在庫量から算出した数値」の中間値を基本に設定。 令和6年産「生産の目安」401,300 トン(面積換算値 69,549 ha) 5年産実績対比(面積ベース) ▲351ha	秋田県水田総合利用課 TEL018-860-1783
山形	「生産の目安」(公表日 2023/11/30) ○ 国の需給見通し(主食用米生産量)に県産米のシェア(直近6中4平均)を乗じた数値を基本とするが、この算定方法を用いた場合、5年産の目安と比較して増加する。 669万トン×4.78% ≒ 319,700 トン(前年目安比+3,600 トン) ○ 民間在庫が多い場合、一定量を減算してきたが、需給状況が改善しており、目安を減らす状況ではない。 ○ 目安を増やすことについて、市町村等からは、一時的な配分の増加により生産現場が混乱することへの懸念が示されている。 ○ このため、令和6年産の「生産の目安」については、5年産の目安と同数の316,100 トンとする。 県段階の「生産の目安」 数量：316,100 トン 面積：52,860ha(平年収量ベース)	山形県農林水産部農政企画課 TEL023-630-2304
福島	「生産数量の目安(面積)」(公表日 2023/12/8) ○ 県段階の目安 県段階の目安については、令和5年産の主食用米の目安と同水準を基本に県産米の需要量シェア、在庫水準、原子力被災12市町村における営農再開を考慮し、令和5年産作付実績と同じ53,100haを設定。 ○ 地域段階の目安 地域段階の目安については、引き続き、「需要に応じた米の生産」に取り組む必要があることから、令和5年産地域農業再生協議会別目安を令和6年産の目安として設定。 なお、原子力被災12市町村については、営農再開を加速する必要があることから、目安を上回る作付けを可能とする。 ○ 制度別・用途別作付計画	福島県農林水産部水田畑作課内 TEL024-521-7369

単位：ha

項目	5年産		6年産	
	計画A	実績B	計画C	5年実績差D=C-B
主食用作付面積	51,900	53,100	53,100	0
計画面積との差	0	1,200	0	▲1,200
SUM(①-⑥)	19,600	18,191	18,100	▲91
①飼料用米	12,600	11,722	10,900	▲822
②備蓄米	5,300	4,753	5,350	597
③加工用米	450	448	500	52
④WCS	1,100	1,079	1,100	21
⑤新市場開拓用米	100	142	200	58
⑥その他	50	47	50	3
全水稲作付面積	71,500	71,300	71,200	▲100

(参考) 各道府県農業再生協議会等が作成した令和6年産主食用米の生産の目安等②

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先
茨城	<p>「生産数量目標に相当する数値（以下、目安）」（公表日等 2023/12/25）</p> <p>1 本県の目安について</p> <p>（1）本県の目安の算出方法</p> <p>本県の目安は、全国の主食用米等生産量の見通しの669万トンに、直近5年間（平成30年～令和4年産）の全国の需要実績に対する本県のシェアを乗じた数量を基本とする。</p> <p>また、令和6年産米の目安を茨城県の平均収量（527kg/10a）で除し、面積換算値を設定する。</p> <p>（2）目安の算出に用いる本県実績シェアの考え方</p> <p>直近5年間（平成30年～令和4年産）における需要実績に基づく本県のシェア4.70%を用いる。</p> <p>（3）上記の（1）、（2）を基に算出した本県の令和6年産米の目安</p> <p>314,430トン（59,664ha）＝全国の主食用米等生産量の見直し669万トン×本県シェア4.70%</p> <p>2 自主的推進目標面積の設定について</p> <p>令和5年産の主食用米の作付面積57,800haに対して、令和6年産米の目安面積は1,864ha上回る59,664ha（作付面積比103.2%）となることから、すでに作付転換に取り組んでおり、目安を達成している産地や生産者を中心に、主食用米への回帰が懸念される。</p> <p>そのため、令和6年産米においても、全国的な需給と価格の安定に資するための取組として「自主的推進目標面積」（県全体56,733ha）を地域農業再生協議会へ提示し、すでに取り組んでいる作付転換の取組の定着と、さらなる拡大を働きかけていく。</p> <p><自主的推進目標面積の設定方法></p> <p>① 令和5年産において目安未達成の市町村の場合</p> <p>自主的推進目標面積＝令和6年産の目安面積</p> <p>② 令和5年産において目安を達成している市町村の場合</p> <p>自主的推進目標面積＝令和5年産の主食用米の作付面積</p>	<p>茨城県農業再生協議会（茨城県農林水産部産地振興課）</p> <p>TEL029-301-3921</p> <p>http://www.iba-raki-suiden.jp/</p>
栃木	<p>「作付参考値」（公表日等 2023/12/25）</p> <p>需要に応じた生産を進めていくため、令和6年産主食用米においても作付参考値を提示することとする。</p> <p>○ 国は、10月の基本指針において、令和6年産の生産量を令和5年産生産量の見直しと同水準としている。</p> <p>○ 一方、全国ベースの需要量は、年10万トン程度減少。</p> <p>○ また、相対取引価格は戻りつつあるが、再び在庫が増加し価格が下落しないようにするためには、需要に応じた生産が必要。</p> <p>○ 需要動向や在庫状況等を勘案し、令和6年産作付参考値は、5年産作付参考値44,652ha（241,120t）を据え置くこととする。</p>	<p>J A 栃木中央会内</p> <p>TEL028-616-8531</p> <p>http://www.tcc-hu-ja.or.jp/saiseikyoo/</p>
群馬	<p>「生産目安」（公表日等 2023/12/20）</p> <p>令和5年10月に国から公表された全国の主食用米等生産量の対前年比（a）により、算定する。</p> <p>県域の生産目安（トン）＝令和5年産主食用米の本県の生産目安（トン）× a</p> <p>国が策定した令和6/7年の主食用米等の需給見直しに基づく令和6年産主食用米等生産量は669万トン（対前年比100%）であることから、県域の生産目安は、67,475トンと算定される（面積換算値13,592ha）。</p>	<p>J A 群馬中央会 担い手支援部</p> <p>TEL027-220-2028</p>
埼玉	<p>「生産の目安」（公表日等 2023/12/26）</p> <p>埼玉県における「生産の目安」の算定方法については、「需要に応じた米生産の推進に係る「生産の目安」について（令和5年12月策定）」で定めている。</p> <p>その考え方に基づき、埼玉県における令和6年産米「生産の目安」は、国が示した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和5年10月）」で示す直近の過去6年分の本県の需要実績から全国需要実績に対するシェアを算出する。その中間な4年分の平均値を全国の需要見直し数量（671万トン）に乗じて本県の需要量を算定し、これを「生産の目安」とする。</p> <p>この結果、埼玉県の令和6年産米の「生産の目安」は138,929t、面積換算値は28,160haとする。</p>	<p>埼玉県農林部生産振興課内</p> <p>TEL048-830-4036</p> <p>https://www.saitama-suiden.org/index.html</p>

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先												
千葉	<p>「生産目安」（公表日等 2023/11/21）</p> <p>現在、米の需給引き締まりにより米価が上昇しているが、国は、今後も米の需要量が毎年減少することを見込み、令和6年産米の適正生産量を令和5年産米の適正生産量と同水準の669万トンと設定した。</p> <p>本県においても、引き続き、需要に応じた生産・販売を行っていく必要があることを踏まえ、本県の令和6年産主食用米の生産目安を令和5年産の生産目安と同数量の25万1,207トン（面積換算値4万6,177ヘクタール）と設定し、各地域においても令和5年産と同じ生産目安を目標として作付転換に取り組めるよう、市町村別の生産目安を令和5年産の生産目安と同数量を提示した。</p> <p>令和6年産主食用米の生産目安 251,207t（面積換算値46,177ha）</p>	<p>千葉県農林水産部生産振興課水田農業対策室内</p> <p>TEL043-223-2891</p> <p>http://www.chiba-suiden.jp/</p>												
新潟	<p>「生産目標」（公表日 2023/11/29）</p> <p>○ 国は、令和6年産主食用米等の生産量の見直しを、令和5年産主食用米等の生産量の見直しと同水準に設定。</p> <p>○ 本県の令和7年6月末の在庫量を適正量（年間需要量の2.5か月分、11.4万トン）とするための、本県の6年産の適正生産量は54.6万トン（面積換算で99,900ha）</p> <p>○ 国の需給見直しと、本県産米の在庫量を適正化する考え方の両面から本県の令和6年産主食用米の生産目標は、54.6万トン（99,900ha）とする。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年産実績</th> <th colspan="2">令和6年産県生産目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数量</td> <td>52.5万トン*</td> <td colspan="2">54.6万トン</td> </tr> <tr> <td>面積</td> <td>100,600ha</td> <td>面積換算 99,900 ha</td> <td>前年度実績差 ▲700 ha 令和5年産の生産目標と 同水準まで作付転換が必要</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 5年産は規格外が例年より多く発生しているため、特例的に規格外も含めて生産量を算出</p>		令和5年産実績	令和6年産県生産目標		数量	52.5万トン*	54.6万トン		面積	100,600ha	面積換算 99,900 ha	前年度実績差 ▲700 ha 令和5年産の生産目標と 同水準まで作付転換が必要	<p>新潟県農業再生協議会（事務局 新潟県農林水産部産園芸課）</p> <p>TEL025-280-5295</p> <p>https://www.niigatamai.info/public/list/c/14/（新潟米情報センターHP、県農業再生協議会情報）</p>
	令和5年産実績	令和6年産県生産目標												
数量	52.5万トン*	54.6万トン												
面積	100,600ha	面積換算 99,900 ha	前年度実績差 ▲700 ha 令和5年産の生産目標と 同水準まで作付転換が必要											
富山	<p>「生産目標」（公表日 2023/12/1）</p> <p>○ 富山県農業再生協議会において、①全国の生産量の目安を踏まえつつ、②本県産米の需要見直し、在庫量や価格の動向、超過達成の状況等を勘案し、現行の生産力が維持されるよう、県段階の生産目標を172,843トン、31,600haと設定した。</p>	<p>富山県農業再生協議会（富山県農業協同組合中央会農業対策課内）</p> <p>TEL076-445-2011</p>												
石川	<p>「生産基準数量」（公表日 2023/12/11）</p> <p>○ 県農業活性化協議会において、行政、生産者、販売業者など関係者の合意のもとで主食用米の「生産基準数量」を決定。</p> <p>○ 主食用米の「生産基準数量」は、国の生産量の見直しや需給動向を踏まえ、前年と同水準に据え置く。</p> <p>本県における令和6年産主食用米生産基準数量：109,514トン</p>	<p>石川県農業活性化協議会</p> <p>J A グループ石川営業戦略室</p> <p>TEL076-240-5051</p> <p>石川県生産振興課</p> <p>TEL076-225-1621</p> <p>http://www.chu-ja.jp/inkk/</p>												

(参考) 各道府県農業再生協議会等が作成した令和6年産主食用米の生産の目安等③

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先																				
福井	<p>「生産数量の目安」(公表日 2023/12/15) 国が示した令和6年産の全国の需給見通しを参考にするとともに、福井県産米の需給状況と需要見込みに基づき、目安を設定する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">令和5年産生産数量目安</th> <th colspan="2">令和6年産生産数量目安</th> <th colspan="2">R6-R5</th> </tr> <tr> <th>数量(t)</th> <th>面積(ha)</th> <th>数量(t)</th> <th>面積(ha)</th> <th>数量(t)</th> <th>面積(ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福井県</td> <td>114,932</td> <td>22,145</td> <td>114,252</td> <td>22,014</td> <td>▲680</td> <td>▲131</td> </tr> </tbody> </table>		令和5年産生産数量目安		令和6年産生産数量目安		R6-R5		数量(t)	面積(ha)	数量(t)	面積(ha)	数量(t)	面積(ha)	福井県	114,932	22,145	114,252	22,014	▲680	▲131	<p>福井県農業再生協議会 Tel.0776-27-8223</p>
	令和5年産生産数量目安		令和6年産生産数量目安		R6-R5																	
	数量(t)	面積(ha)	数量(t)	面積(ha)	数量(t)	面積(ha)																
福井県	114,932	22,145	114,252	22,014	▲680	▲131																
山梨	<p>「目安」(公表日等 2023/12/28) 令和6年産主食用米等の生産数量の目安の設定にあたっては、令和6/7年主食用米等需要量671万トン等を算定の基準におき、国により生産数量目標が提示されていた平成27年産米における本県シェアを乗じて算出。 令和6年産米の生産数量目安 24,491トン(対前年比330トン減) 面積換算 4,544ha(対前年比52ha減)</p>	<p>J A山梨中央会 農業振興課内 Tel.055-223-3503</p>																				
長野	<p>「生産数量目安値」(公表日等 2023/11/28) 前年の目安値に毎年国が示す適正生産量の増減率を乗じて算定。 本県の令和5年産主食用米の生産数量目安値に、国が示す需給見通しにおける生産量の前年対比(令和6年産適正生産量÷令和5年産適正生産量)を乗じた値を基本として算定。 ○ 令和6年産主食用米の生産目安値 176,703トン(対前年2トン減)、面積換算値 28,520ha</p>	<p>長野県農政部農業技術課内 Tel.026-235-7221</p>																				
岐阜	<p>「生産指標」(公表日 2023/12/8) ○ 令和6年産主食用米等の生産指標の設定にあたっては、国が令和5年7月に示した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」を基に、平成27年産米の岐阜県シェアを乗じて、令和6年産の岐阜県の生産指標を設定し、市町村別の生産数実績の直近2ヶ年の平均値のシェアで按分した市町村別生産指標を各地域農業再生協議会へ提示した。(通知日:令和5年10月23日) 「生産目標」 ○ 生産指標を基に、各地域農業再生協議会が設定した、令和6年産の「生産目標」の集計値は、100,000t(面積換算値20,618ha)となる。</p>	<p>岐阜県農政部農産園芸課 Tel.058-272-8439 https://www.pref.gifu.lg.jp/page/16968.html</p>																				
静岡	<p>「需要量予測及び生産目安」(公表日等 2024/1/9) ○ 需要量予測 平成21年産から令和4年産までの需要実績から回帰分析を行い、令和6年産の県産米の需要量を71,978トンと試算した。 ※需要予測には、国から提供される県産米の生産量と在庫数量から算出した需要実績を用いる。 ○ 生産目安 生産目安については、国が示した令和6年産の適正生産量が令和5年産と同水準であったこと、県内実需(JA、米穀卸業者)が令和5年産と同水準から同水準以上の集荷を計画していることを加味し、令和6年産の生産目安数量は令和5年産と同水準の72,674トンとした。 また、生産目安面積は生産目安数量を水稲の10a当たりの平均収量(520kg/10a)で除して算出し、令和6年産米の生産目安面積は13,976haとした。</p>	<p>静岡県経済産業部農業局農産振興課内 Tel.054-221-3249</p>																				

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先
愛知	<p>「生産数量目標の目安」(公表日 2023/12/18) 本県の総需要量(人口×一人当たり消費量)に占める本県産米シェア率(過去10年間のシェア率)により需要量を推計し、6月末在庫量を考慮して主食用米生産量を算出する。 生産者の安定的かつ持続的な生産を確保する観点から、主食用米生産量と前年の生産数量目標の目安を勘案し、生産数量目標の目安(主食用)を設定する。 生産数量目標の目安(主食用)に種子用等の生産量を加えたものを生産数量目標の目安とする。 令和6年産米の生産数量目標の目安 ⇒ 令和6年産米の生産数量目標の目安(主食用)126,442t + 種子用等の生産量668t = 127,110t</p>	<p>愛知県農業再生協議会 事務局:愛知県農業水産局農政部園芸農産課 Tel.052-954-6420 http://www.aisui-kyo.jp/</p>
三重	<p>「生産量の目安」(公表日 2023/12/25) ○ 国が公表した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針」に準じ、令和5/6年及び令和6/7年の三重県産主食用米の需給見通しを算出する。 ○ この需給見通しから算出した令和6年産主食用米等生産量を「主食用米生産量の目安」とする。 ○ 食用米生産に供する種子については、県産米の安定生産を図る上で重要であることを鑑み、「水稲種子生産量」の必要分とする。 ○ 「主食用米生産量の目安(128,360t)」に、「水稲種子生産量(372t)」を加え、三重県の「生産量の目安(128,732t)」とする。</p>	<p>三重県農林水産部農産園芸課 Tel.059-224-2547 http://www.pref.mie.lg.jp/NOUSAN/HP/77062045898.htm</p>
滋賀	<p>「生産目標(生産の目安)」(公表日等 2023/11/28) 令和6年産米の生産目標(生産の目安)は、卸等から求められている本県産米の数量として、令和5年産米の収穫量136,100トンに、卸等の需要に対し供給できていない数量10,000トンを積みあげた146,100トンとして設定。 令和6年産生産目標(生産の目安):146,100t(面積換算値:28,205ha)</p>	<p>滋賀県農業再生協議会 Tel.077-528-5211 http://www.shiga-suiden.jas.or.jp/jyuyou/R06san-haibun.pdf</p>
京都	<p>「見通し」(公表日等 2023/12/20) 主食用米については、米価の下落、主産地からの販売攻勢や全国的な需要減少に対応するため、オール京都でさらに高品質でおいしい売れる米づくりに取り組むとともに、WCS用稲、飼料用米、加工用米等の多様な実需者ニーズを起点とした需要の拡大、京都府産の米の知名度の向上、生産の低コスト化等を進める。 令和6年産水稲(主食用)作付見通し:12,537ha</p>	<p>京都府農林水産部農産課 Tel.075-414-4953</p>
兵庫	<p>「生産目安」(公表日等 2023/12/6) 1 国が示す令和6年産主食用米等生産量(669万t)に県のシェア(概ね2.4%)によりベースとなる数値を算定。 2 上記で算出した数値から、令和5年産の酒造好適米(枠内)相当の数量を控除し、県協議会が実施した県産米の需要動向調査、各地域協議会の意向、農地の利用状況、他作物の生産状況、本県産米の民間在庫量等を踏まえた主食用米の生産余地を総合的に判断し、令和5年産と同水準で設定。 令和6年産生産目安:150,000t(面積換算値:29,940ha)</p>	<p>兵庫県農林水産部農業経営課 Tel.078-362-3409 https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/documents/20231206_14607_1.pdf</p>
奈良	<p>「生産数量の目安」(公表日等 2024/1/9) 令和5年10月公表の国が示す基本指針における全国の主食用米等需給見通しによる令和6年産米等生産量が令和5年産米等生産量と同水準であることから、奈良県においても、令和6年産米の生産の目安を、令和5年産米の生産の目安と同水準に設定する。 令和6年産生産数量の目安:39,260t(面積換算値:7,667ha)</p>	<p>奈良県食と農の振興部農業水産振興課 Tel.0742-27-7443</p>

(参考) 各道府県農業再生協議会等が作成した令和6年産主食用米の生産の目安等④

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先		主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先
和歌山	<p>「生産数量の参考値」（公表日 2023/12/25） 令和6年産は5年産と同水準の全国の生産数量の見通し（669万トン）が示されたため、本県も同様に令和5年産と同水準の生産面積を維持し、平年並みの単収として算出。</p> <p>令和6年産米の生産数量の参考値：29,720t（面積換算値：5981.6ha）</p>	和歌山県農業再生協議会（事務局）和歌山県農林水産部農業生産局果樹園芸課 TEL073-441-2904	香川	<p>「生産の目標」（公表日 2023/12/19） ○「生産の目標」設定の方法 ① 香川県農業協同組合が各地域の現状の品種別作付実態、集荷・販売動向からみた今後の需要等を加味して算定した面積等から、県・JA担当者で構成する、さぬき米生産推進チームにおいて協議のうえ原案を作成。 ② 全国的に需給が均衡し、米価が回復傾向にある中、本県の主食用米の作付面積が毎年500総規模で減少している現状が続いていることから、引き続き産地としての主食用米の生産量を確保し、水田農業の維持を図ることとします。また、県全体で令和6年産の作付面積を維持するため、全国の需給見通しを踏まえ、県産米の需要・販売動向、作付実績などを考慮して、「生産の目標」を設定。</p> <p>提示する内容：面積 10,100 ha、生産量 50,096 トン ※参考：県全体の生産の目標 主要品種及び地域ごとの生産の方向性 提示する単位：県全体、香川県農業協同組合の7地域 その他：主要品種及び地域ごとの生産の方向性は、今後、目指すべき品種構成や地域ごとの作付方向であり、各種施策に取り組みとともに、生産者に情報発信を行いながら推進を図る ③ 各地域農業再生協議会は、「生産の目標」に基づき、地域協議会ごとの作付予定面積の算定や水田収益力強化ビジョンを策定</p>	香川県農政水産部農業生産流通課 TEL087-832-3418 https://www.saiseikyokagawa.jp/suiden/index.html
鳥取	<p>「生産数量目標」（決定日 2023/11/27） 1 設定等の考え方 (1) 県農業再生協議会は、県全体の生産数量目標及び地域別の生産数量目標を設定する。 (2) 県全体の米生産数量目標は、JAグループの販売計画に基づき作成した生産数量目標の合計、生産者の作付意向、国の適正生産量を勘案する。 (3) 各地域協議会の生産目標数量は、需要に応じた生産のための目安とし、各地域協議会はJAと調整しながら作付推進を行う。 (4) 令和6年産米については、各JAが販売計画に基づき作成した生産数量目標の合計、国の適正生産量に基づき試算した本県産米の需要量の範囲内で県全体の生産数量目標を設定する。</p> <p>2 具体的な設定方法 (1) 次の①と②の中間値を生産数量目標とする。 ① 各JAが販売計画に基づき作成した生産数量目標の合計（61,855 トン） ② 国適正生産量からの試算値（前年度と同水準、58,872 トン） (2) 各地域協議会の生産数量目標は、前年度の作付実績を基に、県全体におけるシェア率を求め、その係数を乗じて設定する。 (3) ただし、JAの生産数量目標の合計を県全体の需要量とした場合の地域の生産数量目標は、各JA内における前年度の作付シェア率を求め、その係数を乗じて設定する。</p> <p>3 令和6年産米の生産数量目標 生産数量目標は、上記②58,872 トン～①61,855 トンとの中間値 60,363 トンを鳥取県の生産数量目標の目安とする。</p>	鳥取県農業再生協議会 鳥取県農林水産部農業振興局生産振興課 TEL0857-26-7283 鳥取県農業協同組合中央会JA支援部農業くらし対策室 TEL0857-21-2608	愛媛	<p>「生産の目安」（公表日 2023/12/22） 1 愛媛県全体の「生産の目安」の設定方法 県全体の「生産の目安」は、国が公表した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」において設定された令和6年産米の全国の適正生産量669万トンに、国が平成28年度から固定した県別シェア率を乗じたものを県全体の「生産の目安」の生産量とし、その数値を本県平年単収で除した数値を「生産の目安」の作付面積とする。 令和6年産米の全国の適正生産量669万トン × 本県シェア率 73.920/7,510,000 = 県全体の「生産の目安（生産数量）」65,849 トン 県全体の「生産の目安（生産量）」65,849 トン ÷ 本県平年単収 4.98 トン/ha = 県全体の「生産の目安（作付面積）」13,223ha 2 地域農業再生協議会別の「生産の目安」の設定方法 ① 作付面積 県全体の「生産の目安」の水準に地域農業再生協議会の作付合計を誘導するよう、各地域農業再生協議会の「生産目標（案）」に一律で係数を乗じて調整した数値とする。 ② 生産数量 各地域農業再生協議会の「生産の目安」の作付面積に市町別単収を乗じた数値とする。</p>	愛媛県農業協同組合中央会総合企画部 TEL089-948-5610
岡山	<p>「生産量の目安」（決定日 2024/1/4） 岡山県域における生産量の目安は、令和5年産主食用米等の生産量の目安に10月19日に国が公表した「基本指針」の主食用米等生産量（需給見通し）の対前年比率（669万トン/669万トン）100%を乗じて算定する。 目安数量 141,238 トン 面積換算 26,851 ha ※ 平年単収（526kg/10a）により算出</p>	岡山県農業協同組合中央会総務企画部 TEL086-232-2355	高知	<p>「生産の目安」（公表日 2023/01/10） 1 令和6年産米の高知県生産数量目標の設定方法 ○ 需要に応じた生産を進める観点から、全国及び高知県の需要実績（直近1年）を基本として算定する。 ○ 算定に際しては、全国平均を上回る高知県の人口減少率を考慮する。 ○ 算出された数値が令和5年産を若干上回るがほぼ同じであるため、令和5年産の実績値を目標に設定する。</p> <p>令和6年産の高知県生産数量目標 = R6/R7年の全国需要見通し × R4/R5年の高知県の需要実績の全国シェア × 0.98 = 671万トン × 49,123トン/6,911,000トン × 0.98 = 46,740トン（面積換算：10,250ha）（面積換算=46,740トン ÷ 平年収量 456kg/10a × 100） ≒ 46,300トン（面積換算：10,200ha）</p> <p>2 令和6年産米の市町村・地域農業再生協議会別生産数量の目安の設定方法 ○ 令和6年産については、引き続き、需給バランスの安定に向けた取組を県下全域で推進していく必要があることから、令和4年産の生産数量目標の市町村別シェアにより算定する。</p> <p>令和6年産の市町村別生産数量の目安 = 令和6年産の高知県生産数量目標 × 令和4年産の生産数量目標（面積換算）の市町村別シェア + 令和5年産の作付面積を考慮した補正面積</p>	高知県農業振興部農業政策課 TEL088-821-4511 http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/162201/2019122000223.html
広島	<p>「生産の目安」（公表日 2023/12/8） ① 「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」の全国の需要見通しの6年産主食用米生産量（669万トン）×広島県のシェア率（直近7年間の都道府県別シェアのうち中庸5年の平均） ② 令和5年産広島県主食用米収穫見込数量+県内実需者に対する需要動向調査結果により算出した県内産需要量</p> <p>①≥②となった場合、①を生産の目安とする。 ①<②となった場合、②を生産の目安とする。 県域主食用米生産の目安（数量） 111,800 トン（②により算出）</p> <p>県域の生産の目安（数量）を県平年単収（農林水産省公表値）で除し県域の目安（面積換算値）を算定。 県域主食用米生産の目安（面積換算値） 111,800 トン/528 kg（21,174ha）</p>	広島県農業再生協議会事務局（広島県農林水産局農業経営発展課） TEL082-513-3557	山口	<p>「生産の目安」（公表日 2023/12/25） ○ 山口県の令和6年産主食用米の生産の目安は、前年と同水準の83,500 トン（面積換算 16,564ha）に設定。 ○ 令和5年産主食用米生産の目安に、令和5年10月19日に公表された「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」で設定された主食用米生産量の対前年比（R6 669万トン/R5 669万トン）を乗じて算定。</p>	山口県地域農業戦略推進協議会事務局 TEL083-973-2215 https://y-ninaite.jp

(参考) 各道府県農業再生協議会等が作成した令和6年産主食用米の生産の目安等⑤

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先
福岡	<p>「作付計画数量・面積」(公表日 2023/12/25)</p> <p>○ 令和6年産における主食用米の作付計画数量・面積</p> <p>(1) 近年の不作に伴う供給量の減少と他県産米の価格低下により、主要な販売先である県内における県産米シェアが低下。県内需要の回復傾向を踏まえ、県産米の需要見込量を算定し設定。 作付計画数量: 171,120 トン</p> <p>(2) 作付計画数量を本県の前年産米年平均収量で除して作付計画面積を算出。 作付計画面積: 34,500ha</p> <p>※参考</p> <p>○ 令和5年産 作付計画数量: 171,120 トン、作付計画面積: 34,500ha</p>	<p>福岡県水田農業推進協議会 (福岡県農林水産部水田農業振興課) Tel.092-643-3473</p>
佐賀	<p>「生産のめやす」(公表日 2023/11/28)</p> <p>○ 令和6年産米の「生産のめやす」</p> <p>国は「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」において、令和5年産の適正生産量と同水準の作付けを行えば、需給が均衡するという見解を示した。 これを踏まえ、佐賀県においても前年産と同水準とすることとした。</p> <p>・令和6年産米の「生産のめやす」: 127,724 トン(面積換算値 24,609ha)</p> <p>※参考</p> <p>・令和5年産米の「生産のめやす」: 127,724 トン(面積換算値 24,609ha)</p>	<p>佐賀県農業再生協議会(佐賀県農林水産部園芸農産課) Tel.0952-25-7117</p>
長崎	<p>「生産の目安」(公表日 2023/12/27)</p> <p>○ 「県の生産の目安(生産量)」は10月に国から提示された令和6年産の「全国の生産数量目安」に「全国における長崎県数量シェア※」を乗じて算定。 ※長崎県数量シェア0.84%とは、昨年と同様に国が最後に示した平成29年度長崎県への生産数量目標61,511tを全国の生産数量目標735万tで除したものである。</p> <p>【県段階の算定方法】</p> <p>1 「県の生産の目安(生産量)」 全国の生産数量目安×全国における長崎県数量シェア $669万t \times 0.84\% = 55,988t$</p> <p>2 「県の生産の目安(面積)」 生産の目安(生産量)÷長崎県の年平均収量 $55,988t \div 485kg/10a = 11,544ha$</p> <p>○ 令和6年産長崎県生産数量の目安 55,988t 令和6年産長崎県生産面積の目安 11,544ha</p>	<p>長崎県農林部農産園芸課 Tel.095-895-2943</p>
熊本	<p>「作付目安」(公表日 2023/12/27)</p> <p>○ 地域協議会等の主食用米の作付目標面積の積上げが、国策定の米穀の需給見通し等を踏まえた県全体の需要見込量(面積換算)の範囲内に収まることから、作付目標面積の積上げを県全体の作付目安に設定。</p> <p>令和6年産米の作付目安 地域協議会等の主食用米の作付目標面積の積上げ(※) 29,960ha ※作付目標面積の積上げは、地域協議会が作成する水田収益力強化ビジョン等を踏まえた作付目標面積の合算値。</p>	<p>熊本県農林水産部生産経営局農産園芸課 Tel.096-333-2388</p> <p>http://www.kumamoto-suiden.jp/</p>
大分	<p>「生産の目安」(公表日 2023/11/24)</p> <p>1 設定の時期 11月24日</p> <p>2 算定方法</p> <p>(1) 県全体 平成30年産米20,600haの作付面積を基準として、国が示した需給の見通し及び水稲の作付実績を勘案したうえで、高収益な園芸品目等への転換促進、その他戦略作物(麦、大豆等)等への転換をすすめるため、令和6年産の目安を17,781haとする。</p> <p>(2) 市町村への提示 令和6年産の目安17,781haに令和5年産主食用米作付面積の市町村別シェアを乗じる。</p>	<p>大分県農林水産部水田畑地化・集落営農課水田活用推進班 Tel.097-506-3593</p> <p>https://www.pref.oita.jp/sos/hiki/15280/6mokuhyou.html</p>

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先
宮崎	<p>「作付の目安」(公表日 2023/12/19)</p> <p>1 基本的方針 本県では、これまで平成27年における本県の全国シェアを用いていたが、本年度より、国の基本方針において示す「生産量の見通し」の対前年増減率を、前年目安に乘じる形に変更し、本県の「生産の目安」を算出する。</p> <p>2 算出根拠と算出方法</p> <p>① 国の「生産の見通し」の対前年増減率 : +1.05%</p> <p>② 宮崎県の令和5年産「生産の目安」 : 83,380 トン</p> <p>③ 宮崎県の令和6年産「生産の目安」(②+(②×①)) : 84,255 トン</p> <p>④ 宮崎県の令和6年産「作付の目安」(③の面積換算値) : 16,987ha(前年比 : +177ha) ※年平均収量 496kg</p> <p>3 市町村への提示 令和6年産「作付の目安」16,987haに令和5年産主食用米作付面積の市町村別シェアを乗じる。</p>	<p>宮崎県農業再生協議会 Tel.0985-31-2030</p> <p>宮崎県農政水産部農産園芸課水田農業担当 Tel.0985-26-7136</p>
鹿児島	<p>「生産の目安」(公表日 2023/12/21)</p> <p>1 基本的な考え方 水田の有効活用と需要に応じた米の生産を進める必要があることから、県民の主食用米の消費量を参考に「生産の目安」を設定。</p> <p>2 令和6年産の「生産の目安」</p> <p>① 生産量 : 90,000 トン ・県民の米消費量推計(県人口×国民1人当たり米消費量) : 約90,000 t</p> <p>② 面積 : 18,600 ha ・生産の目安(生産量) : 約90,000 t ÷ R5年産年平均収量 : 485kg/10a</p>	<p>鹿児島県農業再生協議会 (事務局:鹿児島県農政水産部園芸課) Tel.099-286-3197</p>
沖縄	<p>「目安」(公表日 2023/11/09)</p> <p>① 「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(令和5年10月)」の令和6/7年の主食用米等の需給見通し主食用米等生産量と、平成29年産生産数量目標で用いた沖縄県の割合※をもとに、令和6年産主食用生産量(沖縄県)を算出する。</p> <p>② 沖縄県の目標単収を用いて、沖縄県分の生産量の範囲内で、沖縄県の目安作付面積、目安収穫量を設定する。</p> <p>○ 全国の令和6年産の生産量設定 669万トン うち、沖縄県の割合 2,549 トン</p> <p>○ 沖縄県の目安収穫量 2,549 トン 沖縄県の目安作付面積 797ha 沖縄県の目標単収 320kg/10a</p> <p>※沖縄県の割合は、全国に対して0.0381%(平成29年産生産数量目標より2,799t/7,350,000t)</p>	<p>沖縄県農業再生協議会事務局 (沖縄県農林水産部糖業農産課内) Tel.098-866-2275</p>

※ 令和6年1月中旬に決定予定

	主食用米の作付けの考え方	問い合わせ先
徳島	<p>「生産の目安」(公表日等令和6年1月中旬)</p> <p>○ 国における令和6年産主食用米生産量の見通しは、令和5年産米と同水準の作付面積として生産量を設定することにより、令和7年6月末の民間在庫量が一層適正な水準とすることが出来ると見込んでいる。</p> <p>○ 国における令和6年6月末の主食用米民間在庫量は、令和5年6月末に比べて減少し、適正水準に達する見込みであり、県内についても同じような傾向にあることが見込まれる。</p> <p>以上のことから、本県における令和6年産主食用米の生産目安については、令和5年度の生産目安と同水準とする方向で検討している。</p>	<p>徳島県農林水産部みどり戦略推進課 Tel.088-621-2430</p>